平成31年度　理科

学校番号	2001

教科	科目	必修／選択	単位数	指導学年
理科	地学基礎	選択	2	第2年次後期

教科書・副読本・問題集 No.	分類	教材名
①	教科書	地学基礎（啓林館）
②	副読本	ニューステージ　新地学図表
③	問題集	センサー地学基礎　改訂版
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		

学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。

教科からのメッセージ（学習方法 等）

日常生活の中で起こるさまざまな自然現象に興味をもち、そのしくみについて考える態度をもつとともに、疑問に思ったことを確かめてみようという習慣を身につけて欲しい。

特記事項

必履修科目。「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」のうち3科目を卒業までに必ず履修しなければならない。

学習評価（評価規準と評価方法）

観点		観点の趣旨	主な評価方法
A	関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	授業態度、小テスト、実験レポート
B	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査、小テスト、実験レポート
C	観察・実験の技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果をを的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	授業態度、実験レポート
D	知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	定期考査、小テスト
E			

年間（学期間）指導計画

学期	期間	教材	単元	配当時間	学習内容	評価観点	単元目標（CAN-DO）／単元（題材）の評価規準	主な学習活動	主な評価方法	評価
前期	第一中間まで									5 4 3 2 1
前期	第二中間まで									5 4 3 2 1
前期	期末まで									5 4 3 2 1
後期	第一中間まで	①②③	固体地球とその変動 移り変わる地球（1）	24	ガイダンス 地球の概観 プレートテクトニクス 地震 火山 岩石 地層 （すべてABCD）	A B C D	古代の科学者の方法を用いて、地球の大きさや形について考察し、計算ができる。 プレートの動きによって、地球の大地形ができていることを理解する。 地震や火山の仕組みを理解し、それらから身を守る方法を考える。 岩石の観察を通して、岩石の成因、成分などを理解する。 地層の層序を読み取ることができる。 （すべてABCD）	実習 DVD視聴 問題演習	定期考査 レポート ノート	5 4 3 2 1
後期	第二中間まで	①②③	移り変わる地球（2） 大気と海洋（1）	24	地球の歴史 大気の構造 水と気象 太陽放射と地球放射 熱の輸送と風 （すべてABCD）	A B D	地球の誕生から現在までの姿を学び、地球環境と生命が影響し合い発展したことを理解する。 気象の三要素である「気圧」「気温」「水」について理解し、気象現象が発生する理由を考える。 太陽放射と地球放射のつりあいから、地球の気温が保たれていることを理解する。 緯度ごとの太陽放射と地球放射の不均衡から、地球に風が吹いていることを理解する。 （すべてABCD）	実習 DVD視聴 問題演習	定期考査 レポート ノート	5 4 3 2 1
後期	期末まで	①②③	大気と海洋（2） 宇宙の構成 自然との共生	24	海水の作用 日本の気象 太陽系 太陽 恒星の進化 銀河系と大規模宇宙 自然の恩恵と災害 （すべてABCD）	A B C D	熱の輸送に海洋が役立っていることを理解する。 季節ごとに特徴的な天気図や気象を理解し、日常生活と関連付けて考えることができる。 太陽系天体の特徴と成因を理解する。 太陽の概観と、熱源について理解する。 広域宇宙をどのように調査するか考え、地球から観測できる情報のみでどのように宇宙の全体像がわかるようになっていったかを知る。 地球環境問題について調べ学習を行い、班ごとに発表活動をする。 （すべてABCD）	実習 DVD視聴 問題演習 調べ学習・発表	定期考査 レポート ノート	5 4 3 2 1